

ファッション

ashion

RYOKU

杉野学園卒業生座談会
社会に出て知ったこと

TOKYO
BRAND PICK UP

ファッションの裏技拝見

F/CE.®

山根敏史さん
山根麻美さん

May 2022 Vol.55



注目クリエイターによる
撮り下ろしビジュアル

NEW

HOT CREATOR

Photography : Shota Ashino @ srg_ashino

Design : Takuto Adachi @ takuto_adachi

Styling : 7A @ not_six

Hair & Make-up : Yumi Watanabe @ iuvo_

Model : Soichiro Tanaka @ sou16_tanaka
: 7A

FILE:018

odd_ デザイナー
タカヤマミチヒコ

杉野服飾大学大学院を修了後、2016年に「odd_ (オッド)」を立ち上げる。ものを造るプロセスそのものをテーマとして、その中でいかに遊べるかという好奇心で活動している衣服造形レーベル。



MAP OF WASTE

ラクガキやぬいぐるみ、何かを溶かしたり、解体したり、本来必要のないものを取り込んだプロセスを辿り、回り道をしながらものづくりをするodd_。その活動を、架空の地図とその中の冒険になぞらえたテーマで今季の洋服とビジュアルを製作。

Costume :
odd_010-"Map of Waste" @ odd_tokyo



“ 機能性を追求したワードローブに残るファッションアイテム ”



2022-23年秋冬シーズンは「ドイツ」をテーマに、パウハウスのデザインの考え方や、建築、アルペンスキー、ジャーマングリーンなどのカラー要素をコレクションに取り入れた。 1. オリジナル開発のダウンは、空気が循環するように無数の穴が開いている。羽毛が膨らむので暖かくなるうえ、小さく収納可能。 2. 雪の日でも着用できる超撥水加工を施した尾州のウールコート。軽量なので重ね着にピッタリ。 3. ポーラテック社のフリース。リサイクル素材も積極的に採用している。

■若者へメッセージを。
麻美…勉強するより慣れる、でしようか。いくら学校で勉強しても実践しなければ身に付かない。学んだことを生かせるアクションを起こしてみてください。

敏史…人に与えるもので自己表現をするのがファッションだと思うので、自分の道は自分で切り開いていかないと何も生まれない。まずはなんでもいいから、興味のあること好きなことをどんどん突き詰めてみてください。

■今後の目標は？
麻美…海外の観光地や人が集まる都市にお店を出してもっとエフシーイーを世界中に広めたいです。日本では、近所のママさんがエフシーイーのダウンを着ている姿などを目にするが増えてきたので嬉しいですね。

敏史…ファッション好きは必ず一着持っているようなアイコン的なアイテムになり得るものを毎シーズン作っていききたいです。
■メンズとウイメンズそれぞれ、デザインする上で意識していることはありますか。
麻美…昨今はウイメンズラインがユニセックスの品番になることが多く多いので、ゆるっとしたシルエットやサイズ感はかなり意識して作っています。

間をにかけていますね。

■ものづくりへのこだわりは？
いわゆるフィールドテストのように大雨の日などあえて悪い環境下で自分たちが実際に着て過ごすことで、動きやすさや扱いやすさを常にアップデイトさせています。バックブランドから始まったので、製品ベースのものづくりがエフシーイーの根底にあると感じています。ただ機能性に重点を置くと、どうしてもアウトドアブランドに傾いてしまうので、エフシーイーはあくまでファッションブランドとして、痒いところに手が届くようなアイテムの企画に情熱をかけています。なのでテーマやクリエーションの部分は毎シーズンかなり時期

ファッションの裏技拝見

TOKYO BRAND PICK UP

Vol.55

ダウンジャケットやバックパックなどアウトドアシーンで活躍するアイテムをはじめ、ハイスベックでありながらタウンユースできる洗練されたデザインとクオリティの高さで人気を博すブランド「F/CE.®（エフシーイー）」。
デザイナーの山根敏史さん、麻美さん夫妻に会うためオフィスを訪ねた。

Interview : Masahiro Kubo, Sakura Tsuchiya Photo : Sakura Tsuchiya



山根 敏史 Satoshi Yamane
愛知県出身。企業デザイナーとしてキャリアを積み、その後「cross」の日本支社創立に携わる。2010年アパレルプロダクトの企画・販売をするOPEN YOUR EYES株式会社を設立。同年F/CE.®創設。音楽活動「toe」ではベースを担当。

山根 麻美 Asami Yamane
大阪府出身。大手セレクトショップでバイヤー、プレスを歴任。2013年OPEN YOUR EYES株式会社へ参画。同社内でF/CE.®のウイメンズラインを担当。

<https://fce.tools> @ fce_tools

エフシーイー

F/CE.®

クリエイティブディレクター
メンズデザイナー

ウイメンズデザイナー

山根 敏史さん / 山根 麻美さん

■エフシーイーのコンセプトは？
ブランド名は、ファッションとファンクショナル（機能性）の二つの意味を込めたFと、カルチャーのC、エクスプロレーション（探検）のEの頭文字を組み合わせたもの。毎シーズン一つの国をテーマに選んで実際に足を運び、自分たちが滞在した時に感じた生活感や歴史、文化をデザインに落とし込んだ機能的なファッションアイテムを展開しています。

■ブランドの始まりは？

前身は「FICULTURE（フィクチュール）」という名前のバックブランドでした。バックから始めた理由は、昔から機能性のあるものが好きだったのですが、例えば「パタゴニア」や「グレゴリー」の定番モデルのデザインがずっと変わらないことや、バックパックからスタートしたアウトドアブランドが多いことから、ものづくりのヒントはバックにあると感じていたからです。5年目を迎えるタイミングで現在のエフシーイーに改名。バックだけでは表現しきれないブランドの世界観を洋服でも見せていこうと、同じフィロソフィーでアパレルラインを少しずつ増やしていきました。ブランドを立ち上げた当初から海外の展示会に出展していましたが、2017年の「東京ファッションアワード」受賞をきっかけに、海外の取引先がぐんと増えました。今ではアパレルの売上が全体の6割を占めています。

ファッションの裏技拝見

FEATURING A KEY PERSON

Vol.23

ファッション業界のさまざまな職種で活躍するキーパーソンを紹介する連載Vol.23は、ホーブインターナショナルワークスが提供する高級お直しサービス店「サロンドリデザインクローゼット（通称、リデクロ）」に勤める岡田紗佑里さんにインタビュー。お直し・リメイクに携わる仕事の魅力を聞くため、リデクロ原宿店を訪ねた。

Interview : Masahiro Kubo, Utako Amino Photo : Sakura Tsuchiya



© redeclo_harajuku

洋服が大好き。 洋服も生きていると思って接しています

リデクロ原宿店スタッフ / 岡田 紗佑里さん

【 PROFILE 】 岡田 紗佑里 Sayuri Okada 静岡県出身。2019年3月エスモード ジャパン京都校卒業。同年4月よりホーブインターナショナルワークス株式会社へ入社し、サロンドリデザインクローゼット千葉店へ配属。7月、サロンドリデザインクローゼット原宿店オープンに伴い、原宿店配属となる。

■岡田さんがファッションに興味を持ったきっかけは？

もともと工業高校出身でしたが、将来は彫刻がやりたいなど、美大を目指してスクールにも通っていました。ただ、アートの道で食べていけるのか不安もあって、もやもやしている時、「コム・デ・ギャルソン」のサルエルパンツに出会った。お小遣いをはたいて正規の値段で購入し、「洋服に救われた」と、ファッションの道へ方向転換することに。私は静岡県出身ですが、関西の食や人情、ファッションも含めたカルチャーに興味があったので、エスモードジャパン京都校（当時）へ進学を決めました。ポートフォリオを作ってプレゼンする授業がありました。外部の先生は優しいけれど内部の先生はとても厳しくて。そこで培った経験はとても良い刺激になりました。

■リデクロへ勤めようと思ったのは何故？

就職のタイミングで私が強く思ったことが、「量産は絶対したくない」ということ。洋服が大好きなので、「洋服も生きている」と思っています。古着が好きだったことや、専門学校で服作りを学んだ経験から、「お直しだったら一点一点お客様の思いを受け取って服作りができるんじゃないかな」と思いました。そんな私の思いにぴったりはまったのがリデクロだったので、「誕生日なので、お祝いに採用してく



AFTER

BEFORE

ださい」とプレゼンして、見事内定を頂きました。

■はじめに勤めたのは関西のお店ですか？

学生時代に大阪堀江店でインターンをして、就職してからは千葉をこう店へ異動しました。その後、原宿店がオープンすることになったタイミングで自ら立候補。自分らしく仕事をさせてもらっています。

■現在の仕事について教えてください。

基本的にはパンツの丈詰め、シルエット調整などがメインです。そのほかに、リメイクの仕事があります。例えばタレントさんの衣装をリメイクするオーダーを受けた時のこと。衣装は一度着たらおしまいということが多いのですが、思い出しに残しておけるように、タレントさんが趣味でしているゴルフ用バッグにしたり、娘さんにもお揃いの生地で作ったバッグを作ったりしました。「おばあちゃんからも作ったシャツを継ぎ合わせてワンピースにしてほしい」というオーダーや、「買ってみたいものの思ったイメージと違った」、「大事にしていたのに汚れて着られなくなっちゃった」、「形見として残しておきたい」など、思い入れのあるものが多くてやりがいを感じます。

■お直しは、汚れの対応なども受け付けていますか？

染め直しやニットのかけはぎ、クリーニング、黒染めなどリメイクに通ずる委託もしているの、幅広く対応しています。

■岡田さんが仕事をする上で心掛けていることは？

とにかく調べる。お直しはお客様に合わせる。大事なので、ヒアリングしてさまざまな提案をすることが求められます。体型も違えば性別もライフスタイルも好きなジャンルも違うので、フォーマルからエレガント、カジュアルなどオールジャンルの知識が必



写真右：岡田さんが手がけたデニムパンツをベストにリメイクした商品。写真左：デニムの帽子は、デニムの余った生地を集めて作った岡田さんのオリジナル。

要です。ビンタレストを活用して、お客様の好きなテイストや求めているイメージを引き出しながら、お客様が選択しやすいように必ず3つは提案すると自分の中で決めています。

お客様から学ぶことも多くて、たとえば40代のアメリカ好きの男性がビンテージデニムの丈詰めに来たことがあります。チェインステッチの色、素材はコットンかポリエステルかなどこだわりも強く、デニムの知識が増えました。原宿店にはチェインステッチ用のアメリカ製ミシンブランド「ユニオンスペシャル」を置いていますが、ユニオンスペシャルはねじれに特徴があり、ビンテージデニムが好きな方はアタリを大事にしているので、どうしたら良い雰囲気が出るのかなども作業しながら研究しました。

■難しいオーダーもありますか？

そうですね。具体的に直してほしいイメージがある場合はスムーズですが、「どうにかしてほしい」とざっくり依頼された場合は、どうしてほしいのか探りを入れながら修正方法を

検討していきます。お直しでは自社工場に依頼して断られることもあります。たとえばダウンの身幅出し。できると思って受けたのに断られたときは、反骨精神が強いので、自らミシンを踏んで仕上げました。仲良しの工場長に「ほら、できたよ」と自慢しましたね。お客様が喜んで、着ている姿を見せに来てくれた時は、何よりも嬉しかったです。また、工程をふまえて一度できれば会社の蓄積にもなるし、技術職に関しては教育部門を作って技術を共有できるようなマニュアル作りもしたいですね。

■今後の目標は？

今の20代はファストファッション世代です。し、オーバーサイズを良しとする文化も重なって、安くて使いやすいものが豊富な世代。購入した値段よりもお直し代が高くなってしまうキャンセルされたこともあります。でも、お直ししかできないこともある。お直しで選択肢の一つとしてもっと認知されるように励んでいきたいです。

■若者にメッセージを。

ものづくりが好きであってほしい。洋服だけでなく、お直しにはいろいろな知識がながっていくところがあるので、さまざまな知識をインプットする習慣をつけると良いと思います。

SHOP DATA

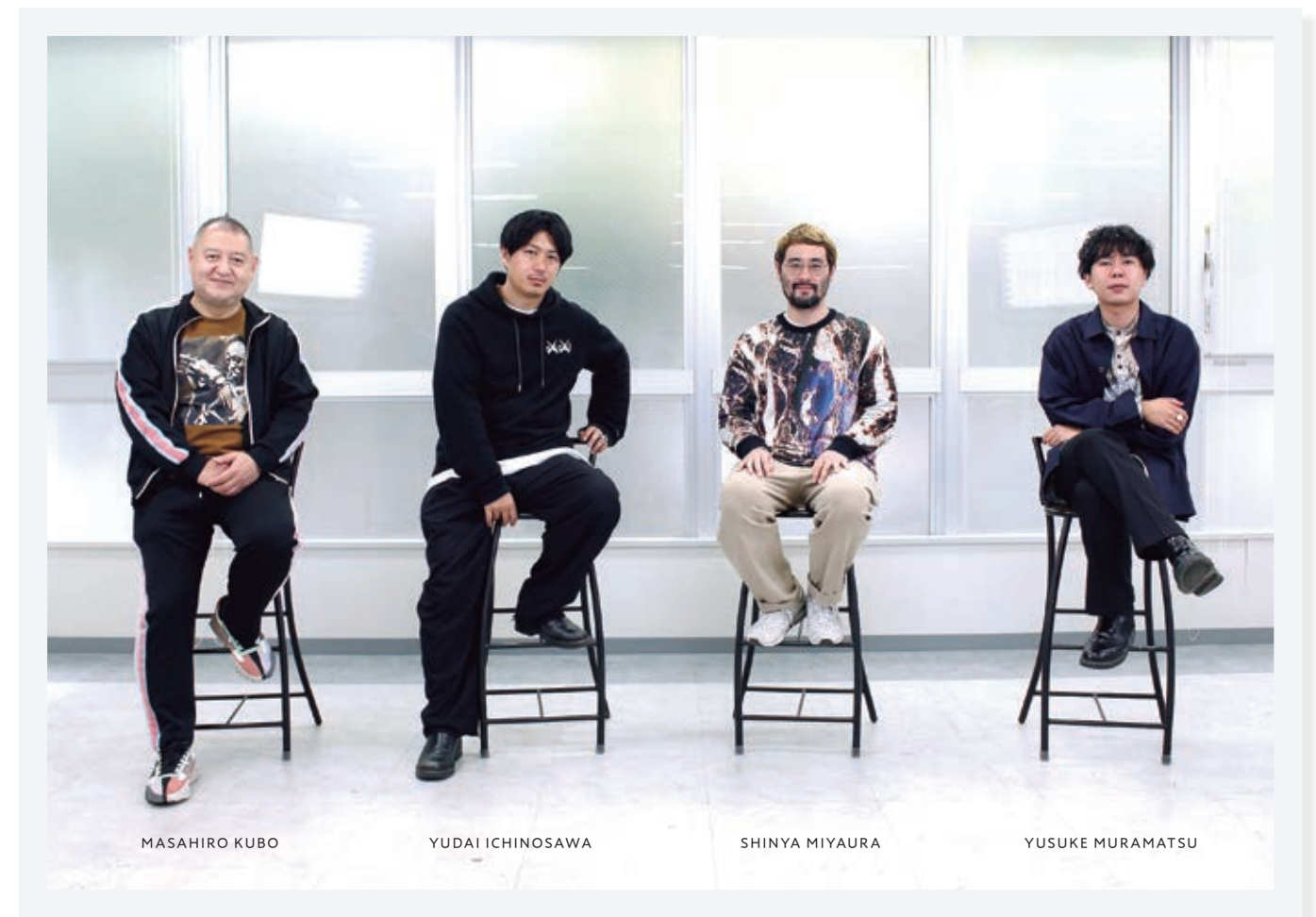


リデザインクローゼット原宿店
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前3丁目18-21
営業時間：11:00-20:00
定休日：年中無休（年末年始などを除く）

杉野学園卒業生座談会 社会に出て知ったこと

ファッションを学んだ先にはどんな未来が待っているのだろうか？
今号の『ファッション力』では、現在ファッション業界で活躍する杉野学園ドレスメーカー学院
(以下、ドレメ)と杉野服飾大学の卒業生3名をゲストに招き、
学生時代のことや現在の仕事、学生時代との意識の比較などについて語り合ってもらった。

Text : Utako Amino Photo : Sakura Tsuchiya



MASAHIRO KUBO

YUDAI ICHINOSAWA

SHINYA MIYaura

YUSUKE MURAMATSU

司会：編集長 久保雅裕

織研新聞社・アッシュ編集室長/バリ支局長を経て、フリーのファッションジャーナリストに。杉野服飾大学特任教授、USEN『encoremode』コントリビューティングエディター。2018年から毎日ファッション大賞推薦委員。

杉野学園公式YouTubeで座談会の様子を配信 ▶



久保…現在の仕事について教えてください。

市野沢…株式会社TEN10の代表取締役で、アルマーニの広告のスタイリングや雑誌「装苑」のレギュラー企画、乃木坂46や欅坂46など坂道グループをはじめとしたアイドル衣装のデザイン制作、高校の制服デザインの仕事などをしています。

久保…スタイリストも得意分野があると思いますが、市野沢さんはデザインの強いものを選ぶことが多いですね。

市野沢…言われた通りに集めることはあまり無くて。第一候補に言われた通りの、でもあまり好きではないものを持ってきて、第二候補に自分が好きなものを持っていくと、大体第二候補が選ばれる。レイヤードや面白い着せ方を印象付けていくうちに、そういう仕事が増えていきました。

久保…衣装は借りてくるだけでなく制作

も多いですね。ブランドと組むこともありますか？

市野沢…「ミューラル」や「ボディソング」などにお願ひすることもあります。もう十数年、一緒に仕事していますね。座組はドレメ関係者が多いです。

久保…ドレメのネットワークを活用しているんですね。

宮浦…僕は株式会社糸編の代表として、デザイナーと産地を繋ぐ企画や技術の橋渡し、素材開発などを行っています。簡単に言うと、デザイナーさんやアパレルさんが素材を探している時の、産地とのコーディネート業務です。

久保…宮浦さんはファッション力32号で、デザイナー三原康裕さんとの対談企画でもご登場頂きました。先日も楽天ファッション・ウィーク東京の関連イベントに参加していましたね。

宮浦…東京にニットの組合さんがあって、一

社一社の工場の魅力をビデオで紹介するお仕事でした。それをYouTubeにあげたりインスタライブをやったり、発信のお手伝いもしています。

村松…僕はレディスブランド、ミューラルのクリエイティブディレクターをしています。ドレメ卒業後、就職しないでブランドを立ち上げました。はじめは友人へ服を作ることから始まり、関口と出会ってから一緒にブランドを始めようと、2013年本格的に始動しました。展示会ベースで始まり、2017年に東京コレクションで発表、現在はまた年2回の展示会ベースに戻して活動しています。

久保…ミューラルのショーでは、それこそ坂道系のアイドルがフロントローに並んでいることもありましたがね。

村松…市野沢の繋がりで衣装の仕事をした経緯もありますが、衣装のフィッティングの現場に行ったら偶然、私服でミューラル

を着てくれていた方もいて。インフルエンス力のある人が発信してくれてブランドの公式アカウントのフォロワーが増えることもあり、SNSの力を感じています。

久保…仕事をしていて感じることは？

宮浦…若者が産地に飛び込んでくることが増えましたね。就職先として選択する人が増えている。生地はいろいろなルートで買えますが、産地から買いたいというブランドも増えていて、取引を継続する人も多い。

久保…村松さんも産地と直接、取り組んでいますか。

村松…はい。アーカイブの資料を見せてもらってそこからデザインを起こしたりします。ただ、サンプルを見て「この部分をアレンジして使いたい」と言っても、間に入っている業者が廃業してできないとか、素材



情報は
全部
足で稼いで
いました

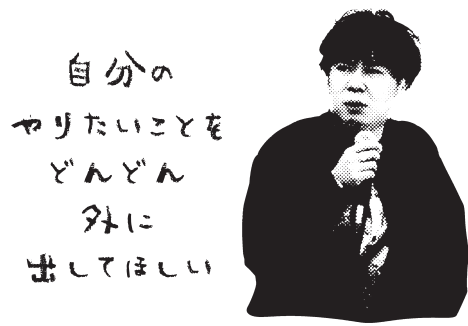
市野沢 祐大 Yudai Ichinosawa

株式会社TEN10 スタイリスト・ディレクター

ドレスメーカー学院ファッションビジネス科スタイリストコース2007年卒業。2013年、独立。メンズ・レディスを問わず、国内外の雑誌、広告、アーティストなどあらゆる媒体のスタイリストとして活動。株式会社TEN10、TEN10 LAB.を設立し、クリエイターコミュニケーションを軸に新たなビジュアル制作を試みる。TEN10 LAB.では衣装企画&制作、OEM等でアーティストのMVや広告などの衣装制作を担当。



写真上: JUVENILE HALL ROLLCALL 2020 S/S look 写真右下: BODYSONG. 2022 S/S look
写真左下: BODYSONG. 2021 F/W look すべて市野沢さんがスタイリングを担当。



自分の
やりたいことを
どんどん
外に
出してほしい

村松 祐輔 Yusuke Muramatsu

MURRAL クリエイティブディレクター

ドレスメーカー学院デザインアート科2009年卒業。2012年関口愛弓と共に年2回のコレクション形式で「ミューラル」をスタート。



MURRAL 2022-23AW Collection

ミューラル2022-23年秋冬コレクションのテーマは「GRADATION」。日常の中でつい見落としてしまいそうな、移りゆく感情や景色の変化を素材やディテールで表現した。

村松…情熱の矛先をどこに向けるのか、闇雲でなくそれをフォローアップしてくれる環境が学校にあるならいいですね。最近ドレメの課題の審査をやらせてもらっているのは、ずっと根本的なシルエットが

市野沢…卒業制作を見させてもらいましたが、「コロナで希望がなくなりまして、テーマは希望がない服です」というて見せられても、色も暗くて寂しいですね。夢を持ってほしいです。

久保…今はD to Cも盛んになり、DXツールもいろいろあつて昔より多様ですしね。村松…情報は溢れているので探せば出てくるとしています。自分のやりたいことが学校に向けてなのか外に向けてなのかで大きく違ってくるので、どんな外に出してほしい。あとはブランドを立ち上げてから「これ知っておきたかった」と思うことは、ルックブックのつくり方、デリバリー、生産、ラインシート…作ること以外にやらなきゃ

市野沢…学生の作品を見ると、ボタンや生地、クオリティーが弱いと感じました。学生でお金がないこともよくわかるけど、もっと多くの生地を触って知った方がいい。ひとつのスペースを卒業生と在学生が一緒に使って繋がれたら、コミュニケーションや技術にしろ、クオリティーの高い生地が使えるなど循環できそうです。

村松…僕は卒業後、杉野学園の支援で二年間学校の施設をアートエとして貸してもらいました。駆け出しでお金がない僕らにとって、本当に助かりました。残反はアカシア(杉野学園の購買に設置された生地

久保…他校では学生の作品をバリの合同展示会へ出展したり、東コレで発表しているところもあります。お互いにメリットがあれば、卒業生と学校はもっと繋がるかもしれないですね。

市野沢…学生の作品を見ると、ボタンや生地、クオリティーが弱いと感じました。学生でお金がないこともよくわかるけど、もっと多くの生地を触って知った方がいい。ひとつのスペースを卒業生と在学生が一緒に使って繋がれたら、コミュニケーションや技術にしろ、クオリティーの高い生地が使えるなど循環できそうです。

市野沢…あの頃は外部からスナップ取材もよく来ていました。『WWD』では2ページにわたってスナップが掲載されたんです。いつも怒られてばかりだった先生の態度もそれで少し変わりましたね(笑)。

久保…学校や学生に向けて、何かアドバイスはありますか？

市野沢…卒業制作を見させてもらいましたが、「コロナで希望がなくなりまして、テーマは希望がない服です」というて見せられても、色も暗くて寂しいですね。夢を持ってほしいです。

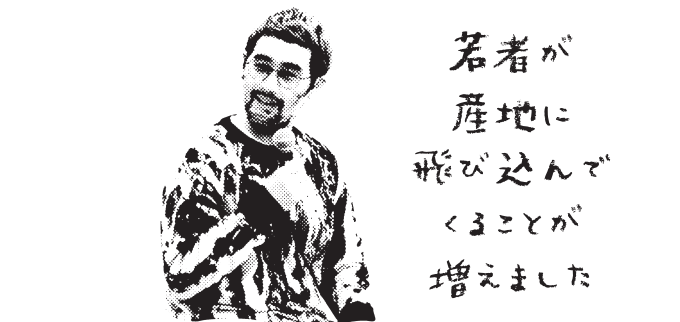
市野沢…あの頃は外部からスナップ取材もよく来ていました。『WWD』では2ページにわたってスナップが掲載されたんです。いつも怒られてばかりだった先生の態度もそれで少し変わりましたね(笑)。

宮浦…2017年から会社の主軸のような形で「産地の学校」を始め、現在約400人が参加しています。いろいろな人が産地に就職していますが、もっと技術職

市野沢…ドレメの最初の印象は、先輩がみんなお洒落だったこと。東京に出てきて初めて「アメリカンラグジー」など尖ったセレクトショップへ行き、そこで「マルジェラ」とか「ガリアーン」とか、先輩の着ている服を見つけて値段を知るんです。「こんなに高いの!」と思う服をみんなが着ているから、先輩たちが雲の上のような存在に感じました。そのうち先輩とコミュニケーションを取るようになって、サンプルセールや安くブランド品を売る店、変わったセレクトの店などをたくさん教えてもらいました。自分

久保…話を覚えて、学生時代について教えてください。

村松…学生時代の一番の財産は、縫えるようになったこと。ドレメはとにかく丁寧でサポートが手厚い。今よりクラスも多くてそこまで少人数というイメージではなかったけど、学生がついていけなくなるかもしれないところを必ずフォローアップしてくれました。授業で経験できて良かったことは、繊維総合見本市「ジャパン・クリエイション」との産学連携。産地の現場を見ながら自分たちの作りたい生地を作って洋服にするところまでを経験したことは、今仕事をする上でも役に立ちました。



名者が
産地に
飛び込んで
くることが
増えました

宮浦 晋哉 Shinya Miyaura

株式会社糸編 代表

杉野服飾大学服飾学部服飾学科モードクリエイションコース2011年卒業後、ロンドンカレッジオブファッションで学ぶ。2012年、日本のものづくりの発展と創出を目指すキュレーション事業「Secori Gallery」を開始。翌年、コミュニティスペース「セコリ荘」を月島にオープン。2017年、株式会社糸編として法人化し、繊維産地の訪問を重ねながら、各種マッチング、素材製品開発、コンテンツ制作、場の運営、産地の学校などを展開している。



写真：東京ニットファッション工業組合との取り組みで、参画企業の魅力を紹介するYouTubeチャンネル「TOKYO KNIT OFFICIAL」の取材編集、発信を宮浦さんが担当した。



MALION VINTAGE

「マリオンヴィンテージ」(石田崇莉子・清水亜樹)は、ブランドの中核である古着のパッチワークで仕立てた数々のアイテムを「秘密基地」と題して披露した。何十本ものネクタイを接ぎ合わせたシリーズは、定番のシャツやパンツに加え、ダウンジャケットとマフラーが新たにラインナップ。インパクトだけでなく品のあるハイセンスなワードローブが並んだ。



PILLINGS

「ピリングス」(村上亮太)は、ズルズルと床を這うトレーンスカートに、昆虫やピアノなど幼少期の思い出をコラージュしたポリウムニットが大行進。金糸の蜜やマクラメ編みの捕獲網、虫食い穴や花の水滴。ディテールの中に隠れる小さなユーモアの発見が楽しい。天井からは蜘蛛の巣に捕らわれたようにグランドピアノを吊るし、ランウェイを引き立てた。



HARUNOBUMURATA

「ハルノブムラタ」(村田晴信)は、フランスの写真家、ラルティエグが写した情景をミニマルなドレスやパンツスタイル、ニュートラルカラーの群像でモノローグのごとく描いた。上質なファブリックのコートやストールをざっくりと羽織り、ポストンバッグを抱えポケットに手をつっ込む着慣れた仕草から、躍動的なフォルムと豊かな女性像を見事に表現した。



FUMIE TANAKA

「フミエタナカ」(田中文江)は、アールヌーボーを思わせる草花をモチーフにしたテキスタイルやアクセサリ、秋冬らしいアースカラーのボヘミアンルックが勢揃い。ザックやワークブーツと合わせてエレガントなタウンウェアに落とし込んだ。後半はブロンドヘアで編み上げた圧巻のフリンジドレスやジレが登場。夜空の下で目頭が熱くなるショーを見せた。



今回は「ヨシオクボ」と「ベッドフォード」がDX支援企業のサポートを受け、AR(拡張現実)の採用やNFT(非代替性トークン)の発売など時代性を感じさせる発表形式も新味となった。

とはいえ、欧米の発注カレンダーに合わせて体制を整え、東京を舞台に数シーズン発表後、ミラノ、パリへと巣立つという展望が明確化することで、「世界に売る」未来を見据えるブランドが増えることを期待したい。

海外からのバイヤー、ジャーナリストの来日も引き続き叶わなかった。コロナ禍の影響継続に加えて、ロシアによるウクライナ侵攻が勃発し、欧州便の欠航が相次いだり、燃油サーチャージの上昇など不安定要因が増大したことも足を遠のさせることに繋がったと言えよう。こういったマイナス要素が早く収束し、23年春夏シーズンには、海外との往来が本格的に復活することを望みたい。

次シーズンは、会期を世界のコレクションカレンダーの先頭に変更して2回目となる。海外セールスを行っているブランドからは歓迎する声聞かれる一方、生地生産背景やサンプルアップなどに関して、弱小ブランドが抱える課題、すなわち「大手の都合で後回しにされる」という悩みを抱えている場合など、どこまで早期化に対応できるかが鍵となりそうだ。

前シーズンのまとめで「玉石混交は否めない。(中略)レベルを保つための基準は必須だ」と指摘したが、今シーズンは全体的にレベルアップし、「観るに堪えない」と思うようなショーが殆ど無かった。また東京コレクションといえば、世界的にみるとメンズへの評価が高く、それは東京が独特に持つストリート感の力強さによる所以なのだろうが、今回は特にウイメンズの台頭が著しく感じ

DXの活用、ウイメンズの台頭など全体のレベルアップを感じた東京コレクション

Rakuten Fashion Week TOKYO

2022 AW COLLECTION



Simone Rocha



Toga



Nensi Dojaka



MATTY BOVAN

2022-23AW LONDON COLLECTION

若手デザイナーの
進出に注目
ダイバーシティ(多様性)の
コレクション

ロンドンではコロナ感染症のパンデミック(世界的大流行)により1月のメンズコレクションが中止となったため、今回も男女一緒に見せるコレクションが中心となりました。参加ブランドは当初予定の131ブランドから若干減りましたが、フィジカルショーが増え今までにない活気が広がっています。もともと若手デザイナーの活躍が注目されるロンドンですが、今シーズンはZ世代に人気のコレクションが話題です。

「LVMHヤングファッションデザイナープライズ」を受賞した「ネンシ・ドジャカ」はプラスサイズモデルを起用してダイバーシティ(多様性)をアピール。スリットを入れたフラットトップドレスから素肌を弾かせたボディーコンシヤスタイルのバリエーションを見せました。

「マティ・ボヴァン」はアメリカをテーマにクラフトワークを加えたボリウムドレスがパワフルなコレクションです。「カルバン・クライン」や「ヴィヴィアン・ウエストウッド」のデッドストックを使ったアップサイクルドレスは色、柄、素材のカルチャーミックスにパンク

精神を盛り込み存在感が際立っています。ロンドンで中堅デザイナーとして人気の高い「シモン・ロシャ」のショーは、不穏な音楽が始まりいつもよりダークなイメージです。ファーストトラックの黒いボリウムコートの中から三つ編みのトレーンが垂れています。解体されたライダーズジャケットからオーガンジーのドレスがはみ出し、ウエストや背中にはめ込んだオーガンジーからは素肌が覗き、強さとフェティッシュな要素でイメージを広げました。

Text: ファッションディレクター 萩原輝美



2022-23AW NEW YORK COLLECTION

次なる世界へ—メタバースファッションショーが始動



DION LEE ©DION LEE



CAROLINA HERRERA ©CAROLINA HERRERA



ANNA SUI ©ANNA SUI



3.1 PHILLIP LIM ©3.1 PHILLIP LIM

エレガンス・ディバングド

Elegance Debunked

きれいなフォルム、計算し尽くされたラインなど完成されたものに対して、破壊したい衝動や不完全なものに対する容認から作り出されたスタイリング。切り落とし、あるべきところでは無いディテールが面白い。

リージェンシー・ルック

Regency Look

ネットフリックスで人気を博しているドラマ『ブリジャートン家』に見られる19世紀初頭の英国摂政時代がインスピレーションソース。不自然なまでに締め上げたウエスト、コルセット、大きな袖など誇張されたディテールを使ったスタイリング。

ワイ・トゥー・ケイ・ムード

Y2K Mood

Z世代に向けたアプローチ。Y2K(2000年代)、ヘソ出し、マイクロミニなど浮かれているが現実的な時代感がテーマ。ゲームやメタバースなどのデジタル世界で先行したトレンドがハイファッションの世界に影響を与えている。

ローライズ・パンツ

Low-rise Pants

60年代から70年代の若者達が好んでいたディテールだが、今シーズンはスーツで股上の浅いパンツがリバイバルした。分量あるスカンツ、タックの入ったメンズライクなウールで見せるローライズが今シーズンらしい。

2022-23年秋冬シーズンのニューヨーク(NY)ファッションウィークが2月11日から16日まで行われた。変化は、マスク解禁のニュースが流れ「エンデミック」という終わりを意味する「End to Pandemic」を掛け合わせた造語が生まれたこと。NYでコロナ感染より深刻なのが、市内での治安悪化だ。続くアジアナイト、精神疾患や薬物依存者、ホームレス、物価の上昇など、不安要素をあげれば切りがない。従来通りのスプリングスタジオをメイン会場に据え、市内の各所で厳格な入場制限下での開催だ。ショー開催の最終決定を行う今年1月に、再ブレイクしたオムロン株の影響により、かなりのブランドがショーの開催を見送った。また、ごく少数の観客での開催や、バーチャルでの配信に変更を余儀なくされ、ウイメンズ57、メンズ9、ユニセックス17ブランドが対面式でランウェイやプレゼンテーションを行うにとどまり、昨年9月以上に寂しいファッションウィークとなった。

新しい方向としては、オンライン上に構築された3次元の仮想空間、メタバース(Metaverse)。英語の「超(meta)」や「宇宙(universe)」を組み合わせた造語がファッションショーの世界でも使われ始めたこと。このバーチャルプレゼンテーション拡大の流れは、簡単に説明するとブロックチェーンという技術的革新によってデータの改ざんやコピーができなくなり、安全にデータを使用できるようになったことが後押ししたと見られている。通常は、セカンドライフなどが主催したバーチャル空間の中で、世界中から思い思いのアバターが参加し、「仮想現実」として土地を買ったり、ゲームやショッピングをするなど新たな生活を送る。今回は「イミテーション・オブ・クラリス」や「ジョナサン・シムカイ」が3Dファッションショーを仮想空間で開催した。

この新しいデジタル世界の基礎が築かれる中、ブランドは何を今後取り入れるべきで、何が必要なのかを見極めなければならない。



©JONATHAN SIMKHA

Text: 布矢 千春 (ファッションジャーナリスト・ドレスメーカー学院 院長)



SACAI



CHLOE



LOEWE



VALENTINO



PRADA



JIL SANDER



GUCCI

強さとフェミニティの
コントラストをアピール

萩原輝美のワンポイントレックス
今シーズンの着こなしのポイントはタイツです。ニーハイタイツや刺しゅうタイツをガリーではなくフェミニンに着こなすのが旬。メンズライクな靴を合わせてマスキュリン&フェミニンを楽しんでください。

「サカイ」は2年ぶりにパリでリアルショーを発表しました。サカイの特徴である異素材で組み合わせるハイブリッドスタイルは薄れ、フォルムで見せるエレガントなコレクションです。ピンストライプやメンズライクなシャツ生地で作られたブラトップはドレスやニットにつながり新しいシルエットを作り出しています。ビッグシヨルダのジャケットはベルトでウエストをキュッと締め、腰の丸みを強調します。「ゴルチェ&サカイ」でクチュールを経験したためか、服の完成度が高まりました。

「クロエ」は今までのフォークロリックなイメージが薄れ、ぐっと洗練されました。レザーのバイクドレスやデコルテを大きく開けたフレアドレスにロングブーツやメンズライクなシューズを合わせ、強さとフェミニティをアピールしています。サステイナビリティーに徹したもの作りは環境負荷の少ないリアルレザーを使い、気候変動の悲劇、干ばつをイメージしたインターシャニッドドレスはリサイクルカシミアで仕上げられています。

「ヴァレンティノ」は「PINK P P C O L L E C T I O N」と題したカラーパレットを色に絞り込んだコレクションを披露。会場のカロ・デュ・タンブルの壁、床、客席はピンク一色に塗られ、自然光が射すセットで明るい気分を誘います。ファースト룩には独特な曲線でデコルテを描いたピンクのコンビネゾンが登場しました。ビッグシルエットのテラードジャケットにはレースや深いV開きのインナーをのそかせセンシブルなエレガンスを表現しています。ピンクに次いで黒一色の룩が登場、一色で表現することとフォルムや素材のコントラストを際立たせ、表現の可能性を最大限に広げました。

2月28日、パリコレクションが始まると同時に、ロシアのウクライナ侵攻が世界を驚かせました。パリコレクションを主催するクチュール協会は即座に「こんな時こそ、ファッションの力で勇氣と希望を照らしたい」とコメントを発表。いくつかのブランドは

「ブラダ」はタンクトップやM A・Iにタイトスカートを合わせるなどベーシックアイテムをモードなバランスで見せました。ビッグシヨルダのジャケットには刺しゅうされたルーレックスのゆがんだタイトスカートを合わせ、ブラダが得意とするマスキュリン&フェミニン、ビッグ&タイトなどのコントラストで遊び、スタンダードアイテムをモードに仕上げました。

「ジルサンダー」は「ルシー&ルーク・メイヤー」がデザインする「ジルサンダー」がぐっと若返り、フレッシュなテラリングを見せました。フェルトのテラードジャケットはウエストを絞り曲線でヒップを描きながらミニスカートを覗かせます。ソックスにシヨートブーツを履いたモデルはランウェイを闊歩、小気味良いスタイリングです。マーメイドラインのニットアンサンブルなどフォルムを強調するアイテムが並ぶ新鮮なコレクション。コートやドレスに使われるボーディールは構築的なシルエットに甘すぎないアクセントとして効果的に使われています。

「グッチ」がミラノに戻って来ました。いち早くメンズ、ウィメンズのミックスショーを見せていたグッチですが、今シーズンはメンズモデルが多く登場、テラリングにフェミニンなパフスリーブのトップスを合わせ、マスキュリンとフェミニンを自由にスタイリングしています。「アディダス」とのコラボでは、ジャケットの胸にアイコンのトレフォイルとGUCCIのロゴが入り、スポーツウェアを超えたモダンなテラードスタイルを打ち出しました。ファスナーで留めたコレットやスリストライプの入ったロングスカートなど新しいフェミニティが表現されています。

「グッチ」がミラノに戻って来ました。いち早くメンズ、ウィメンズのミックスショーを見せていたグッチですが、今シーズンはメンズモデルが多く登場、テラリングにフェミニンなパフスリーブのトップスを合わせ、マスキュリンとフェミニンを自由にスタイリングしています。「アディダス」とのコラボでは、ジャケットの胸にアイコンのトレフォイルとGUCCIのロゴが入り、スポーツウェアを超えたモダンなテラードスタイルを打ち出しました。ファスナーで留めたコレットやスリストライプの入ったロングスカートなど新しいフェミニティが表現されています。

writtenafterwards



Interview Photo : Makoto Ikeda

DESIGNER

山縣 良和 Yoshikazu Yamagata

1980年鳥取生まれ。
2005年セントラル・セント・マーチンズ美術大学ファッションデザイン学科ウィメンズウェアコースを卒業。2007年自身のブランド「writtenafterwards (リトゥンアフターワーズ)」を設立。2015年日本人として初めてLVMH Prizeにノミネート。デザイナーとしての活動のかたわら、ファッション表現の実験と学びの場として「coconogacco (こののがっこう)」を主宰。2019年にはThe Business of Fashionが主催するBoF 500に選出。2021年第39回毎日ファッション大賞 鯨岡阿美子賞を受賞。

writtenafterwards

TEXT

萩原 輝美 Terumi Hagiwara

毎シーズン、ミラノ、パリなど世界のデザイナーズコレクション、パリ・オートクチュールコレクションを取材。ファッション雑誌に記事、コラムを寄稿。専門学校、各種セミナー講師。エレガンスをリアルに落とし込むファッション提案に定評がある。ブランド「ten. (テン)」のプロデュースも手がける。

hagiwaraterumi

ten_official

WRITTENAFTERWARDS

12TH COLLECTION GASSHO -HIDDEN ARCHIVES-

Photograph by Kazou Ohishi

ファッションデザイナー、
山縣良和さんの活動はユニークです。
自身のブランド「リトゥンアフターワーズ」の
デザイナーでありながら
2008年「こののがっこう」を設立し、
話題の新人デザイナーを輩出しています。
リトゥンアフターワーズのイレギュラーな発表以外に
美術館での展示オファーにも作品を出品、
アーティストとしての活躍も目立ちます。
こののがっこうの新しいスペースで
これからのクリエイション活動について
話を聞きました。

Q.. 肩書きはデザイナーで良いのですか？

A.. そうですね、特に肩書きに強いこだわりがあるわけではありませんが、僕が行っている教育を含めるすべての活動がデザイナーの仕事と考えることもできていると思っています。

Q.. デザイナーを目指したきっかけは？

A.. 高校生くらいから興味があったのですが、そのときは自信がなく、大阪の服飾専門学校のファッション・ビジネス学科に入学しました。

Q.. そこではあまり結果を出せずに中退したのですね。

A.. はい、その頃までずっと劣等生でした。勉強ができなかった子供の頃の思い出を元に『ぼくはOてん』という絵本を出版したこともあります。

Q.. その後留学したロンドンのセントラル・セント・マーチンズ美術大学で「裸の王様」をテーマにした卒業作品が評価され首席で卒業されたことは、デザイナーを目指す学生さんたちには刺激ですね。

A.. 自由に活動させてくれたことが、自分の可能性を引き出してくれたようです。

Q.. その教育方針がこののがっこうにも生かされているのですね。

A.. 少なからず、影響は受けていますね。学生を尊重して、彼らのやりたいことを見つけ、背中を押すことが大切だと思っています。

今シーズンの最新コレクションは12月に長崎美術館で「リトゥンアフターワーズ12th合掌「Hidden Archives」というタイトルで22・23年秋冬と22年春夏の作品を映像で発表しました。幼少期を過ごした長崎の歴史や背景からデザインした服は、21年3月に発表した「合掌」II「土へと還るあたたかな衣服」から進化させ「社会と衣服における生成と分解」をテーマにしました。

Q.. ファッションとは何だと思えますか？

A.. シンプルに言うならば「装い」です。

Q.. デザイナーとは？

A.. 新しい人間像を提案する仕事。

リトゥンアフターワーズのコレクションはラブリーナボリウムドレスが登場したり、ダークなイメージのブラックだけで表現したりと、毎シーズンテーマによって発想を飛ばします。次の発表は「人間と自然を含めた上での装いのサイクル」を見直したい」と夏頃に展示会を予定しているそうです。リニール中の「リトゥンバイ」(ベシックライン)をB to Cで売ることも模索中とのこと。今後の活躍も楽しみです。

インタビュを終えて

「休みの日は、たいてい本屋さんにあります」と山縣さん。服のことだけではなく世の中のことをいろいろな角度で観察し考えて、ファッションで表現しています。その活動は突飛に見えても、本人の中ではスーッと筋が通っている。派手な活躍の裏でじっくり考えている時間を大切にしていることを感じました。

2022年春のオープンキャンパスに集まった
高校生SNAP!

COORDINATE SNAP

ファッションは自分を発信するもの!

高校生のページ第34弾は、杉野学園のオープンキャンパスに参加したおしゃれさんをスナップしました。
この春から高校3年生、ファッションの世界という夢に向かっていきます!

丸山 美優さん
神奈川県立
川崎高等学校3年

①古着コーデ ②友達・Instagram・TikTok ③Y2K・古着・アメカジ ④ファッションデザイナー ⑤ファッションは自分を発信する方法のひとつ!自分の「好き」を身に付けることは自信に繋がる。



(左) 宮川 結菜さん
東京都立
松が谷高等学校3年

①古着のスウェットとショートパンツにトートバッグ ②Instagram@_nami73_ ③海外ファッション ④プレス ⑤日本でも露出のある服に偏見をなくしてほしい。

(右) 中島 捺実さん
東京都立
松が谷高等学校3年

①古着ベスト ②Instagram@yuika_bn02 ③古着・「ワーズフォーギャラリ」 ④ファッションコーディネーター ⑤ファッションが一番自分を表現できるものだと思う。



QUESTION

- ①今日のファッションポイントは?
- ②ファッション情報はどこから?
- ③好きなファッションは?
- ④将来の夢は?
- ⑤ファッションについて思うこと

小野 彩さん
東京都立
農業高等学校3年

①胸元のリボンと柄が可愛いトップス ②雑誌「non-no」[LARME]・香音ちゃん、鶴島乃愛ちゃんのSNS ③フレンチガーリー ④ファッション関係の仕事 ⑤ファッションって楽しい♡



吉竹 麻央さん
福岡市立福岡女子
高等学校3年

①コシノヒロコデザインの制服 ②Instagram ③「メリージェニー」 ④ファッションデザイナー、ソーイングスタッフ ⑤東京でファッションを楽しみながら学びたい。



中野 実紀さん
神奈川県立
秦野高等学校3年

①自作のお気に入りのパンツに大好きな映画のTシャツとおばあちゃんのお下がりがアクセサリ ②雑誌「VOGUE」 ③柄もの ④ファッションデザイナー ⑤もっといろんな洋服を作るようになって好きなデザインを身に付けたい。



新井 乃亜さん
埼玉県立鴻巣女子
高等学校3年

①春のカラーコーデ ②Instagram ③カジュアル、ガーリー ④ファッションビジネスに関わる仕事 ⑤オシャレはすごく楽しい!オシャレをする自分がキラキラして見える!!



(左) 諏訪 実香子さん
江東服飾高等専修学校
3年

①黒 ②Twitter ③「ヴィヴィアンウエストウッド」 ④ファッション関係 ⑤コーディネートには統一感を。

(右) 小林 優雛羽さん
江東服飾高等専修学校
3年

①モノトーン・小花柄スカート ②雑誌「VOGUE」・Instagram・Twitter ③「アナスイ」 ④服飾関係の仕事 ⑤素敵な服が多すぎて組み合わせが難しい〜!!

早川 笑菜さん
千葉県立
佐倉高等学校3年

①モノトーン・トップスの大きなりボン ②SNS ③ブレッピー、ガーリー ④ウェディングドレスデザイナー ⑤リボンが好きなもので形・大きさ・素材などいろいろ見て、自分でも作りたい。



富山 真之介さん
千葉県立
市川高等学校3年

①セットアップ ②WEAR・Instagram ③オールジャンル ④ファッション業界で働く! ⑤周りの目より自分の気持ち!



浅井 健澄さん
茨城県立
境高等学校3年

①派手なシャツを主役に、パンツは暗めの色で ②Instagram@ten_sei ③古着・ストリート ④アパレルブランドを立ち上げ運営する ⑤服が好きです!



Big Win

(左) 安納 叶海さん
栃木県立
宇都宮白楊高等学校3年

①オレンジのビッグニット ②Instagram・Twitter ③春っぽい感じ ④衣装デザイナー ⑤「かわいい」で一生過ごしていきたい!



(右) 小倉 沙耶さん
栃木県立
宇都宮白楊高等学校3年

①ビッグニットとラッフルスカート ②Instagram ③韓国ガーリー・フレンチガーリー ④衣装デザイナー ⑤服に興味がない人も服を着る楽しさを知ってほしい!



こんにちは! シトウレイです



東京ストリートファッションをSNSを通じ世界中に発信するパイオニア、シトウレイさんが世界のストリートキャッチ



Think, and Action!

シトウレイです、こんにちは! 2月末から3月頭に開催されたパリコレは、コロナのことも相まって日本から飛んだジャーナリストはほぼ私だけ! 今回は、このパリの地で起こっていたこと、肌感覚で感じたことをそのままレポートします。

さて、世界中のファッション関係者が集まるパリコレショー会場、華やかなこの場所ではポップでハッピーな話をすることが不文律、政治と宗教の話題は避けるのが通常なのですが、今シーズンやはり何より開口一番話題に上がるのはロシア・ウクライナの問題でした。パリは両国と地続きの場所であることもあって、より身近かつ自分事の問題として感じられているのを強く感じました。ウクライナの友人がいる、恋人がいる、守りたい誰かがそこにいる。会場でも街でも、ウクライナ支援をファッションで表現している人を見かけたのが印象的でした。ウクライナの国旗のカラーで身を包み、全身でウクライナ支援を表現する人たちが、よく見るとウクライナカラーのバッジをつける人たちなど... いろんな人がいろんな方法でこの問題に対する「自分のステートメント」を表現しているのが印象的でした。自らのファッションに意思や思想、政治観も投影させている。これが今

回パリに行って一番感じたことでした。それと同時に考えたのは、今回のような政治問題だけでなく、サステナブルやSDGs、LGBTQなど政治や社会における問題に対して「私はこう思う」というステートメントをファッションを通じて表現する、というその姿勢自体がこれからのファッションのもう一つの「カッコよさ」の基準になっていくのだと思います。逆に言うと、「今の自分のステートメント」をしっかり持っていないと、もはやお洒落とは呼べない、ということです。さらにもう一つ! どんなに素敵なステートメントを持っていたとしても、きちんとそれを表現しない、行動しないとそれは「お洒落ではない」ということも。「かわいい」「カッコいい」「トレンドっぽい」... そんな見た目だけのファッションは最早ファッションじゃない。見た目も中身も両方の観点でその人を「カッコいいか否か」を判断するのがこれからのファッションになっていく。Think, and Action! これがファッションの新しいカッコよさの「もう一つ基軸」になります。ではでは今日はこの辺で。また次回お会いしましょう!

シトウレイYouTubeチャンネル開設 #シトウレイ #reishito.



©Rei Shito STYLE from TOKYO (http://reishito.com/)



襟川クロの

シネモード

襟川クロ

Kuro Erikawa

年間600本近い作品を見て、ラジオ、TV、雑誌、会見やイベントの司会にインタビューと映画ベッタリの人生を送る日々。犬が出てくると評価が甘くなる・・・そんな襟川クロですが、どうぞよろしく。

映画パーソナリティー襟川クロさんの連載企画、第43弾。
ストーリー批評は他にまかせて、とにかくファッションに注目！な作品を紹介します。

マイ・ニューヨーク・ダイアリー

海外旅行も大変な昨今、「マイ・ニューヨーク・ダイアリー」はタイトル通り、行ったつものNYを満喫。おしゃれで可愛い、働く女子の成長物語です。時は90年代。作家志望のジョアンナは、老舗出版エージェンシーでJ.Dサリンジャー担当の上司マーガレットのアシスタントとして働き始めます。仕事はサリンジャーの代理人として日々大量に届く熱烈ファンレターを処理すること。ずっとこのまま処理係？私の夢は？恋人との関係は？と悩みが激増のある日。サリンジャー本人からまさかの電話？！たまたま出ただけだったのに・・・何度か話すたびに彼に感化され自分もリセットを決めるジョアンナ。これまで代表作『ライ麦畑でつかまえて』どころか一冊も読んでない！と、著書をガングラン読破。やっと何かに気付いたみたいです。舞台はNYでも歴史のある出版関係ときて真面目で作家志望のジョアンナ。かなりコンサバ色濃厚です。何度も着用の白い丸襟とカフの上品なワンピース、後半登場するブルーム色の半袖ニットにカラフルなストライプのフレアスカート、休日の時のデニム&花柄シャツなどほぼ着心地と着回し重視ね。一方、上司のマーガレットの衣装はベテランのアン・ロス女史が担当。ハイウエストのワイドパンツの着こなし、カッコいい！

オードリー・ヘップバーン

スクリーンで輝くスターはゴマンといても、オードリーほど世界中から愛され続ける女優はマレ。24歳の時に初の主演作『ローマの休日』でアカデミー賞を受賞し、その圧倒的な美しさでハリウッドの黄金期を席捲しただけでなく、ファッションアイコン、人道活動家としてもリスベクトされた「永遠の妖精」オードリー。いったい彼女はどんな人だったの？そこにズバリ切り込んだドキュメンタリーの登場です。他界して30年。生前は自分自身に関しては多くを語らなかったけれど、家族（パートナー、娘、息子たち）の協力で誰かのインタビューではなく、自分の言葉で語るプライベートなお宝映像がテンコ盛り！仕事のこと、ジバンシーとの出会いと永遠の友情、少女時代の写真やエピソード、父親との確執、結婚、離婚、家族についてなどなど、どのコメントもストレート。もちろん華麗なドレスのお仕事シーンもあるけれど、スッピンで寛ぐ「家庭人」オードリーはどこから見てもチャarmingな母親。しっかりオーラを消している。オンとオフ、切り替え上手なスターね。印象的なのは引退後、ユニセフの親善大使になりマスコミとの関係を180度変えた理由。感動しちゃいます。人に歴史ありと言うけれど、スターを演じ続けることを自ら選び、愛を与えることを選択したオードリー。だからこそ愛され続けるのかなと。ファン必見の記録です。



5月6日（金）より新宿ピカデリー、Bunkamura ル・シネマ、ヒューマントラストシネマ有楽町ほか全国ロードショー
©9232-2437 Québec Inc. / Parallel Films (Salinger) Dac © 2020 All rights reserved.



5月6日（金）よりTOHOシネマズ シャンテ、Bunkamuraル・シネマほか全国公開
©PictureLux / The Hollywood Archive / Alamy Stock Photo

TOPIC 2 / 見逃せない注目の展覧会

※変更の可能性もありますので、ホームページで必ずチェックしてください。



OKETA COLLECTION
「Mariage -骨董から現代アート-」展
コレクターの楠田俊二・聖子夫妻が、約20年の年月をかけて収集してきた骨董や現代アートのコレクション「OKETA COLLECTION」を、前期・後期（8月6日から）に分けた2つの全く異なるテーマで紹介する。本展覧会では初出展となる新作を含む約40点を「身体」「モノクローム」「カラー」の3テーマに分けて展示。

2022年4月28日（木）～7月3日（日）
休館日：月曜日（祝日の場合、翌火曜休館）
開館時間：火～日 11:00～18:00 ※入館は開館の1時間前まで
入館料：一般1200円 / 大・専700円 / 高校生以下 無料
会場：WHAT MUSEUM 2階（東京都品川区東品川 2-6-10 寺田倉庫G号）



ガブリエル・シャネル テーラードのジャケット、スカート、プラスとベルト 1965年春夏 パリ、ガリエラ宮 ©Julien T. Hamon

ガブリエル・シャネル展
Manifeste de mode
シャネルのスーツ、リトル・ブラック・ドレスを代表に、どれも特徴的な服はシャネルのファッションに対する哲学を体現し、さらにコスチューム・ジュエリーやNo.5の香水といった展示に当時の記録映像が加わることで引き立てられ、鑑賞者をシャネルのクリエーションの魅力へと誘う。

2022年6月18日（土）～9月25日（日）
休館日：月曜日（但し、祝日の場合、6月27日・7月25日・8月15日・29日は開館）
開館時間：10:00～18:00（祝日を除く金曜、会期最終連平日、第2水曜は21:00まで）※入館は開館の30分前まで
入館料：一般2300円 / 大・高1200円 / 中学生以下 無料
会場：三菱一号館美術館

TOPIC 1 / 編集スタッフいち押し本を紹介！



日本現代服飾文化史：ジャパン ファッションクロニクル
インサイトガイド 1945～2021
「それぞれの時代で人々に愛されたのはどんな服だったのか？」「どのような社会的現象がこの服を生んだのか」など時代背景、社会の潮流、生活文化の流れ、その時代のインフルエンサーの変遷など、今まであまり表に出て来なかった75年の歴史を次世代に伝えていくことを目的として制作。サブカルチャーとしてのファッションをオールカラーでわかりやすいビジュアルとともに紐解く。

出版：講談社エディトリアル 発行所：玄光社 2020年



着せる女
メンズファッションウォッチャーの内澤旬子が、服屋に行くのが、面倒くさい、怖くて入れない・・・そもそも服を買いに行く服すらない!? 友人知人の中年男性たちを、スーツ・ソムリエの力を借りながらシュッとカッコイイジェントルマンに変貌させる、笑いながら服選びの基本がわかるスーツ・マジック・エッセイ。「本の雑誌」の大人気連載「着せ替えの手帖」が、ビフォーアフター姿をカラーグラビアで堂々掲載の上、待望の単行本化！

著者：内澤 旬子 発行所：本の雑誌社 1815円

INFORMATION
AND
REVIEW



青野賢一の

オトノヒキダシ

青野賢一

Kenichi Aono

セレクトショップBEAMSにて、プレス、クリエイティブディレクターや音楽部門（BEAMS RECORDS）のディレクターを務め、2021年に独立。ライター、DJ、選曲家として活動する。

音楽はネットでタダで聞くものでしょ！という時代に、少しでも多くの人が作品を聴いてみたい、手元に置いておきたいと思えるように、毎回1アーティストにフォーカスしてその魅力に迫ります。



Photos credit: Blythe Thomas

Arooj Aftab（アルージ・アフタブ）：パキスタン人シンガー・ソングライター、作曲家。バークリー音楽大学を卒業し現在はニューヨークを拠点に活動している。アルバム『Vulture Prince』（2021）に収録の「Mohabbat」で「第64回グラミー賞」最優秀グローバル・ミュージック・パフォーマンス賞を受賞した。同アルバムのデラックスエディションは6月24日発売予定

第64回グラミー賞で快挙を成し遂げた女性アーティスト

「第64回グラミー賞」で最優秀新人賞ノミネートと最優秀グローバル・ミュージック・パフォーマンス賞受賞という栄冠に輝いたアルージ・アフタブは、サウジアラビア生まれのパキスタン人アーティスト。パキスタン出身の女性アーティストがノミネートされるのはグラミー史上初の快挙である。もともとは北インドの伝統音楽でパキスタンにおいて純粋なカたちで継承されている「ヒンドゥスターニー音楽」と現代音楽やアンビエント、ジャズなどが溶け合った透明感あふれるサウンドが彼女の音楽の特徴。2000年代初頭、彼女が18歳のときに自主制作したレナード・コーエンの「ハレルヤ」のカバーは、YouTube以前の時代にあってNapsterなどのファイル共有サービスを通じて多くの人に聴かれることとなった。その後、ボストンの

バークリー音楽大学で音楽制作とエンジニアリングを学び、卒業後ニューヨークへ。2018年、『Siren Islands』でアルバム・デビューを果たした。ほとんどがウルドゥー語（パキスタンの国語でありインドの主要言語のひとつ）で歌われているセカンド・アルバム『Vulture Prince』（2021）に収録の「Mohabbat」がバラク・オバマ元大統領のサマー・プレイリストに選出されたことも話題となった。自身のルーツやアイデンティティーと、リスニング体験や音楽教育を通じて体得したコンテンポラリーな感覚が見事に融合した作品を生み出すアルージ・アフタブ。先ごろ、ジャズの名門レーベル（Verve）と契約したことで、より多くのリスナーの耳にその音楽が届くにちがいない。



ファッション力
FASHION-RYOKU

May 2022
2022年5月30日発行

学校法人杉野学園 出版部

EDITOR IN CHIEF
久保雅裕

EDITORIAL STAFF
木村千晶
網野詩子
福地宏子
土屋さくら

DESIGNER
中島恵利

※本誌の内容に関するお問い合わせは
下記までお願いします

〒141-0021
東京都品川区上大崎4-6-19
TEL:03-3491-8152
E-mail:publish@sugino.ac.jp
URL:https://www.sugino.ac.jp

COVER

Photography: Shota Ashino
Design: Takuto Adachi
Styling: 7A

Hair & Make-up: Yumi Watanabe
Model: Soichiro Tanaka, 7A

 fashionryoku